

労災サポートセンター通信

支え支えられ

賛助会員の皆様と財団を結ぶ機関誌です

賛助会員の皆様には、平素より、当財団の事業運営につきまして格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

この度は、一般財団法人労災サポートセンターの機関誌をお届けいたします。

本号では、皆様からいただいております賛助金で実施しました、「第20回 労災重度被災者作品展」及び、「令和7年 産業殉職者合祀慰霊式への招聘事業」に関する記事を掲載しております。

目次

- I 第20回労災重度被災者作品展・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1頁
- II 令和7年産業殉職者合祀慰霊式への招聘事業・・・・・・・・・・ 4頁

「心をこめて一生懸命つくられた作品を一堂に」

「第20回労災重度被災者作品展」を開催しました

令和7年9月10日から同12日までの3日間、全国産業安全衛生大会が開催された大阪市内の「大阪府立男女共同参画・青少年センター（ドーンセンター）」において、「第20回労災重度被災者作品展」（リハビリからアートまで）を開催し、作品を出展されたご本人やそのご家族、企業の安全担当者などの方々が来場され、熱心に鑑賞されていました。

作品展の様子は当財団HPで動画配信しております。是非ご覧ください。
URL <https://www.rousaisc.or.jp/andOthers/exhibition.html>

《作品の出展状況》

作品展には、26歳から88歳までの幅広い年齢の64名の労災重度被災者から出展がありました。出展された作品は、絵画39点、書12点、写真7点、彫刻2点、手芸品12点のほか、木工品など併せて100点でした。

このうち、当財団が運営している労災特別介護施設の入居者34名（46点）から出展がありました。

《アンケート結果》

作品を鑑賞された方々からは、
「みなさんの力強く生命力あふれる作品に勇気を頂きました。ありがとうございました。」
「業務災害などで障害を受けた方がすばらしい能力を発揮して頑張っていることに勇気をいただいています。」
「どの作品も努力の成果が伝わってきました。これからも作品作り頑張ってください。」
「奇をてらわず素直な思いが作品に表れていた。」
「絵画以外にも写真などもあり見ごたえありました。」
「もっと全国で開催されると良いですね。販売や注文もできると良いなー!」
「心に沁みました。ほっこりあたたかな気持ちになり、人にやさしく自分を律していこうという気持ちになりました。」
「皆さんの前向きな気持ちが伝わってきた。」
「いずれも見事な作品で、心をこめて一生懸命つくられたことがわかるような作品でした。」
など、多くの感想をいただきました。

《大きな感動と勇気を与えてくれた》

労働災害で重度の障害を負った方々は四肢が不自由であるなど、作品制作には多くの困難があります。

しかし、これらの障害を持ちながらも制作された作品の数々は、その芸術性だけでなく、制作過程での苦労も伝えてくれます。こういった作品は、同じような障害を持つ方にはもちろん、作品を目にした多くの人にとって、大きな感動と勇気を与えてくれます。

作品を出展してくださった方々、また、作品展にご来場いただきました皆様、そして、当財団の活動を支援して下さる個人や企業の賛助会員の皆様に心よりお礼申し上げます。

出展作品ご紹介



天満宮の榎（絵画）

庄田 健一 様(埼玉県)



ビーズアート（手芸品）

佐藤 光 様(岩手県)



めんこい「まご」(絵画)
大石 春夫 様(北海道)



メロン(絵画)
楠山 記男 様(和歌山県)



鳥(向かって左) 猿(向かって右)(彫刻)
今野 進 様(長野県)



輝くモフモフ(写真)
川田 泰広 様(静岡県)



Buddy misto 16才(愛犬ミスト)(手芸品)
井川 信子 様(北海道)



努(書)
箱田 勝明 様(広島県)



勇敢な鳥(向かって右)
花鳥風月(向かって左) (絵画)
小形 大輔 様(千葉県)



ショルダーバケツバッグ
(手芸品 皮革工芸品)
山田 九州男 様(大分県)

令和7年 産業殉職者合祀慰霊式

令和7年10月22日(水)、東京都八王子市の高尾みころも霊堂において、独立行政法人労働者健康安全機構主催による令和7年産業殉職者合祀慰霊式が、各都道府県の御遺族の代表、厚生労働大臣(代理 厚生労働審議官)、労働団体・経済団体・労働災害防止団体の各代表が参列され、執り行われました。

当財団では、賛助金による支援活動の一環として、労働災害によりお亡くなりになられた方々の御遺族を産業殉職者合祀慰霊式にお招きする事業を行っており、本年は6名の方々を全国からお招きし、共に慰霊の時を持ちました。



招聘者様からのお話

木村 様（兵庫県）

【産業殉職者の思い出】

夫は、2020年11月23日「勤労感謝の日」に、新型コロナウイルス感染症により旅立ちました。当時は内科医として勤務し、病院長に就任したばかりでした。感染予防対策は手探りで、日々の診療と並行しながら多忙を極めていました。

お盆を過ぎた頃、ふらつきが酷くなり、血中酸素濃度は80台まで落ち込んでいました。緊急入院後、一時は退院が目前となりましたが、一般病棟に移った日に容体が急変し、ECMO（人工肺）を装着する事態となりました。朦朧とした意識の中で突然目を開け、娘と私の手を握ってくれたのは、最期を悟った瞬間だったのかもしれない。

あれから5年の月日が経ち、娘は父の意志を継いで、夫が在籍していた病院で実習を始めます。

最後になりましたが、霊山・高尾山のふもとに安らかな居場所をいただき、感謝申し上げます。そして、同じような犠牲が二度と繰り返されぬよう、心より祈念いたします。



木村様

【賛助会員へのメッセージ】

賛助会員様のお力添えを賜り、交通費助成の事業が行われていることに、心より感謝申し上げます。このような助成制度があることで、遺族が労災に関する活動に参加しやすくなり、それが、今後の労働安全の啓発や再発防止につながると感じております。

私たちは労働災害により、かけがえのない家族を失いました。すべての職場が安全に働ける場所であることを心から願っております。

K・T 様（奈良県）

【産業殉職者の思い出】

若い頃から衛生設備工事の仕事に携わっておりました。

60才の時、定期検診で肺に影があると指摘され、大きな病院でアスベストに罹患していると言われ、入退院を繰り返し、死に至りました。

おそらく古いビルの設備工事に携わっていた時にばく露したと思われる。

最後はNPPVを付けた生活で「苦しみを取って欲しい」と訴えていました。



K・T様

【賛助会員へのメッセージ】

このような機会をつくって頂き感謝しております。

また、アスベスト被害救済へのご尽力誠に感謝いたします。

今後まだまだ救済されていない方々へのご配慮もお願いしたいと思います。

田村 様（宮城県）

【産業殉職者の思い出】

東日本大震災、息子は宮城県女川町で、海の目の前にある銀行で働いていました。

町の指定避難場所である高台に避難し、命を守ることができた多くの人がいる一方で、その高台に逃げずに、息子らは銀行に留まるよう指示されました。

高台は目の前でした。高台避難が鉄則とされていた地域で、2階建ての屋上を超える津波にのまれ息子ら4人が死亡、今も8人が行方不明のままです。

入行3日目、未来への希望を持ち、懸命に業務に取り組んでいました。

もう二度と同じ悲劇を繰り返さないよう、一般社団法人を立ち上げ、安全への備えや意見が言い合える職場環境の重要性そして命の大切さを伝えています。



田村 様

【賛助会員へのメッセージ】

本日は招聘していただき心から感謝申し上げます。

これまで多くの方々がいじめや労働災害により命を落とされていることを知りました。再発を防ぐためにもその事故の原因究明の徹底が必要だと感じています。

私もそうでしたが、企業側と遺族の認識の相違が生じ、その取り組みが上手く進まないのが現実です。今後、遺族側に寄り添う被害者支援窓口の様な仕組みがあればと思っています。

企業管理下では何よりも人命が優先される安全な職場になることを願っています。

高橋 様（静岡県）

【産業殉職者の思い出】

2015年のクリスマスの朝、最愛の娘は自らこの世を去りました。

今年で娘がいなくなつて10年になります。将来を夢見て懸命に生きていた娘は、大学を卒業すると、コミュニケーション能力を強みに広告業界で力を尽くしたいと大手広告代理店に入社しました。真面目で責任感の強い娘は、終わりのない長時間労働で眠ることができない日々が続き、心も体も追い詰められ、入社からわずか9か月、24歳という若さで命を絶ちました。娘の最後のメールには、「大好きで大切なお母さんさようなら。今までありがとう。仕事も人生もすべてが辛いです。お母さん、自分を責めないでね。最高のお母さんだから。」と書いてありました。

娘はかけがえのない宝であり、娘の幸せだけを願って生きてきました。

美しくキラキラ輝く年頃の娘は、幸せな未来を夢見ていました。最愛の娘を失った私は「なぜ娘が死ななければいけなかったのか。」という怒りと、「娘を助けてやれなかった。」という自責の念に押しつぶされそうでした。

【賛助会員へのメッセージ】

私は現在、過労死防止活動を続けています。過労死は本人や家族の責任ではありません。過労死や労災事故、労働災害は未然に防ぐことができます。大切に慈しみ育てた子供たちが、安全が守られない職場で命を落とすことがないように、全ての職場の労働環境の整備を行い、働く人の安全安心が守られ、いのちと健康が守られることを心から願うばかりです。



高橋様

立澤 様（山梨県）

【産業殉職者の思い出】

いつも寡黙でありながら、何でも自身のやりたいようにやらせてもらえる、とても寛大な父でした。仕事に一筋で、建設（内装業）に目を輝かせて取り組み、大手企業や団体の建物に関与し、これらの建物が今でも立派に残っている姿が1つ形見だとも思うことが出来ます。

アスベストによる労災で中皮腫を患ってから、QOLも低下していく中で、いつでも家族のことを思って言葉をかけてくれたのは、とても思い出に残っています。

回復の見込みが少なくても、最期まで病と戦った様子が今でも鮮明に思い出されます。いつまでも自慢の父親であり、尊敬する存在でありつづけています。これまでも、これからも、永遠に。



立澤様

【賛助会員へのメッセージ】

労災に対する国の対応はまだ甘く、もっと伝えていく必要があると思います。風化させない、そして経験者が伝えていく。その媒体として、法人を通して遺族が一丸となって活動する意義があると感じます。今後も更なる活動を期待し、サポートさせていただきたく存じます。

大下 様（広島県）

【産業殉職者の思い出】

5月1日、長男は1人で誰かに看取られる事もなく、新型コロナウイルス感染症にて会社の寮の部屋で亡くなりました。30才でした。

普段から病院には行く方ではありませんでしたが、今回は同じ寮の中でコロナ感染者が3人出たということと、陽性患者と休憩室で「密」状態で過ごしたこともあり、自ら、亡くなる前日に病院に行きPCR検査をしていましたが、亡くなった後にコロナの陽性がわかり、労災認定され、災害死となりました。

息子は、中学生の時に父親を病気で亡くしており、思春期は、寂しい思いをしてきましたが、憧れ尊敬していた父親と同じ仕事に就き、誰からも慕われて頼りにされていました。人生これからって時に若くして生涯を終えなければいけなくなったことに悔しくて悔しくて悔しくてたまりませんが、現実を変えることは出来ません。

息子の分もしっかり生き抜くことが供養に繋がると信じています。



大下様

【賛助会員へのメッセージ】

本日は、この様な式典に参列できた事を、あらためて感謝します。遠方からの参列になるので、交通費助成については大変助かります。遺族が参加しやすいと思います。今後も変わらぬ事業を継続していただきたいです。ありがとうございます。

労災年金支援センター所在地等一覧

労災年金支援センター名	所在地・電話番号	担当区域
北海道労災年金支援センター	〒060-0061 北海道札幌市中央区南1条西8-14-3 札幌第2スカイビル6階	北海道
	TEL 011-241-8083 FAX 011-241-8084	
東北労災年金支援センター	〒980-0014 宮城県仙台市青葉区本町3-5-3 佐新ビル4階	青森県、岩手県、宮城県 秋田県、山形県、福島県
	TEL 022-265-7667 FAX 022-265-7669	
関東労災年金支援センター	〒102-0073 東京都千代田区九段北4-1-3 飛栄九段北ビル10階	茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、 千葉県、東京都、神奈川県、新潟県 山梨県、長野県
	TEL 03-6834-2640 FAX 03-6834-2545	
中部労災年金支援センター	〒460-0003 愛知県名古屋市中区錦2-5-5 八木兵伍馬町ビル8階	富山県、石川県、福井県 岐阜県、静岡県、愛知県 三重県
	TEL 052-205-7211 FAX 052-205-7212	
近畿労災年金支援センター	〒540-6591 大阪府大阪市中央区大手前1-7-31 OMMビル16階	滋賀県、京都府、大阪府 兵庫県、奈良県、和歌山県
	TEL 06-4790-1611 FAX 06-4790-1622	
中国・四国労災年金支援センター	〒730-0012 広島県広島市中区上八丁堀8-10 クロスタワー4階	鳥取県、島根県、岡山県 広島県、山口県、徳島県 香川県、愛媛県、高知県
	TEL 082-223-3286 FAX 082-221-1169	
九州労災年金支援センター	〒812-0013 福岡県福岡市博多区博多駅東1-10-35 CLUB博多駅東オフィスビル3階302号	福岡県、佐賀県、長崎県 熊本県、大分県、宮崎県 鹿児島県、沖縄県
	TEL 092-472-7161 FAX 092-481-5609	

労災特別介護施設所在地等一覧

労災特別介護施設名	所在地	電話番号
北海道労災特別介護施設 (ケアプラザ岩見沢)	〒068-0829 北海道岩見沢市かえで町8-1-1	TEL 0126-25-9001 FAX 0126-22-9470
宮城労災特別介護施設 (ケアプラザ富谷)	〒981-3332 宮城県富谷市明石台4-8-1	TEL 022-772-3311 FAX 022-772-3312
千葉労災特別介護施設 (ケアプラザ四街道)	〒284-0037 千葉県四街道市中台511	TEL 043-433-0120 FAX 043-433-0431
愛知労災特別介護施設 (ケアプラザ瀬戸)	〒489-0989 愛知県瀬戸市山手町294-5	TEL 0561-85-5400 FAX 0561-85-4431
大阪労災特別介護施設 (ケアプラザ堺)	〒590-0137 大阪府堺市南区城山台5-2-1	TEL 072-291-7989 FAX 072-291-7993
広島労災特別介護施設 (ケアプラザ呉)	〒737-0923 広島県呉市神山2-1-15	TEL 0823-34-5577 FAX 0823-30-1888
愛媛労災特別介護施設 (ケアプラザ新居浜)	〒792-0896 愛媛県新居浜市阿島1-3-12	TEL 0897-67-1122 FAX 0897-67-1155
熊本労災特別介護施設 (ケアプラザ宇土)	〒869-0407 熊本県宇土市松原町243	TEL 0964-23-2211 FAX 0964-23-2214

労災サポートセンター通信
支え支えられ 第57号

令和7年12月10日発行
発行人 馬杉 則彦

一般財団法人労災サポートセンター

〒102-0073
東京都千代田区九段北4-1-3 飛栄九段北ビル10階
TEL 03-6834-2510 FAX 03-6834-2530